

緋色縅二枚胴具足 武田耕雲斎所用 (個人蔵 当館寄託)

目 次

- ① 特別展 「志士のかたち-桜田門、天狗党、そして新選組ー」
- ② 収蔵史料(資料)紹介

歴史資料課 「アーカイブズ展 常陸中世の古文書」 行政資料課 「平成 14 年度インターハイ・サッカー競技会場関連行政 資料紹介」

③ トピックス 平成29年度 上半期の歴史館

平成29年度特別展 I 「志士のかたち-桜田門、天狗党、そして新選組-」

【会期】平成29年10月7日(土) ~ 11月23日(木·祝)

前期: $10月7日(土) \sim 10月29日(日)$,後期: $10月31日(火) \sim 11月23日(木・祝)$ ※休館日: $10月10日(火) \cdot 16日(月) \cdot 23日(月) \cdot 30日(月)$, $11月6日(月) \cdot 14日(火)$

幕末の動乱は、志士の時代の到来を意味するものでもありました。志士とは、みずから選択した目的や理念にしたがい、国事に奔走した人びとのことです。多くの志士は、藩や身分・格式といった近世社会における秩序や枠組みをこえて、全国におよぶ交流網を築きあげていきました。

平成29年は、水戸徳川家に生まれ15代将軍となった徳川慶喜が大政奉還を行ってから、150年 目をむかえます。近世武家社会から近代社会へと向かう大きな転換点から節目の年にあたり、当館 では、近代日本の原点をさぐるべく、わが国の幕末維新史を再考する特別展を企画しました。

本展では、幕末維新という大変革の原動力となった水戸藩を中心に、茨城ゆかりの志士の人物像に焦点をあて、その動向や世界観をさまざまな角度から読み解いていきます。そのうえで、幕末維新史において彼らが果たした歴史的役割と、その特質を浮かび上がらせます。また、多彩な群像の生涯を彩る名品の数々や、動乱期の様相を伝える歴史資料をあわせて紹介します。

展示構成および主な展示資料は,以下のとおりです。

1章 文と武の系譜

1. 学は水府にあり 2. 知と剣の交差路

多くの幕末の志士をはぐくんだ水戸藩の特質,なかでも好学の気風を伝える史資料を展示します。本章では,藩校の弘道館や私塾で形づくられた志士の素養について,文武両面から紹介します。 また,学芸における師弟関係や江戸の剣術道場などをとおしてつちかわれた交流網が,その後の活動の土壌を形成していた点を明らかにします。



刀 無銘〔葵崩し紋〕 徳川斉昭作 弘道館鹿島神社(当館寄託)



斎藤弥九郎肖像画 山本幾斉筆 内藤頼寧賛 (部分, 氷見市教育委員会)

2章 境界をこえて

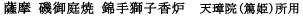
1. 先導者たちの視界 2. 雄藩連合の曲折 3. 桜田門外の変

嘉永6年(1853)の黒船来航から万延元年(1860)の桜田門外の変にいたる時期を中心に、各藩の志士たちの動向に関わる史資料を展示します。本章では、藩や身分・格式といった近世社会における

秩序や制約をこえて、吉田松陰や西郷隆盛ら各藩の志士と積極的に交流しながら、全国におよぶ交流網を築いてゆく水戸藩士の動向と、その多様な世界観を読み解きます。また、井伊直弼や天璋院 篤姫など、ゆかりの深い人物に関わる名品の数々をあわせて紹介します。

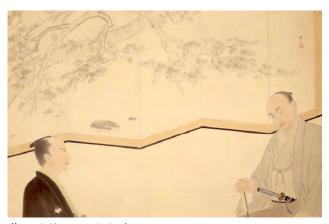


重要文化財 西郷隆盛書簡 大久保利通宛(部分, 国立歴史民俗博物館)



(德川記念財団)





藤田東湖と橋本左内 島田墨仙筆(東京国立近代美術館)



脇差 銘「水府住徳勝作」 徳川斉昭下賜 高橋多一郎所用(個人蔵)



桜田事変絵巻(部分, 彦根城博物館)



(部分,京都大学附属図書館)

3章 尊王と攘夷の空間

1. 攘夷の遠近景 2. 舞台としての京都 3. 新選組誕生

尊王攘夷運動が高揚する文久年間(1861~63)における,各地の志士の思想と行動を明らかにする 史資料を展示します。本章では、水戸藩と関わりの深い東禅寺事件や坂下門外の変などの諸事件を 経て、新選組の誕生にいたる時代的背景を考察します。また、以後の政局の主舞台となった京都と いう都市の特質を、この時期の志士ゆかりの美術工芸の名品を交えて紹介します。



黒檀地花鳥蒔絵螺鈿脇差拵 孝明天皇所用(東京国立博物館) Image:TNM Image Archives



龍笛 伝土方歳三愛用 (佐藤彦五郎新選組資料館)



新選組袖章(霊山歴史館)



加茂行幸図屏風(右隻, 霊山歴史館)

4章 決壊の元治元年

1. 禁門の変 2. 筑波勢挙兵 3. 敦賀に死す

水戸・長州の両藩を中心に、元治元年(1864)における志士の動向を読み解く史資料を展示します。本展では、志士の在り方が大きく変容する転機として元治元年を位置づけます。その立場から本章では、長州藩が主体となった禁門の変、水戸藩を母体とする天狗党の挙兵から西上にいたる動向を、幕府や他藩、周辺の人物を含めてさまざまな角度から考察します。



藤田小四郎自画賛(個人蔵)



英名録(部分, 霊山歴史館)



日本三景図中啓のうち宮島図 孝明天皇下賜 徳川慶喜所用 (徳川慶朝氏蔵)



水戸天狗党絵巻(部分,国立歴史民俗博物館)



緋色縅二枚胴具足 武田耕雲斎所用

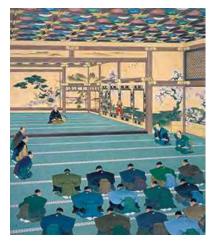
(個人蔵 当館寄託)

断章 大政奉還

今年が150年目の記念年にあたる、大政奉還に関わる史資料を展示します。本章では、江戸幕府 15代将軍徳川慶喜が行った大政奉還という歴史的決断を、わが国が近代化に向かううえで果たした 歴史的意義を提示します。また、慶喜はじめ周辺の志士にかかわる名品をあわせて紹介します。



一字書「誠」 徳川慶喜筆(個人蔵 当館寄託)



大政奉還 下図 邨田丹陵筆(明治神宮)



大政奉還上意書(部分, 当館 一橋徳川家記念室)

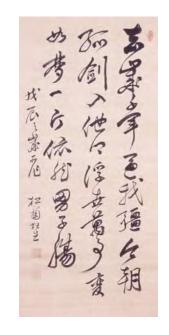
5章 残照の近代

- 1. 志士の終焉 2. 維新期の女性たち
- 3. 歴史と顕彰のあいだ

幕末の志士が消滅し、やがて回顧の対象となってゆく明治期を中心とした近代の史資料を展示します。本章では、江戸幕府の崩壊から近代国家の確立に向かう歴史の奔流のなかで、いわゆる草莽の志士がどのようにして歴史的役割を終え、その後、今日にいたる「志士」像が確立していったのか、その過程の一端を明らかにします。また、維新の動乱期を力強く生き抜いた歌人中島歌子や教育者豊田芙雄ら、本展でとりあげる志士の周辺の女性たちについてもあわせて紹介します。

漢詩書「去歳千軍逼我彊」 木戸孝允筆

(大洗町幕末と明治の博物館)



会期中の関連イベント情報

1. 講演会 I 演題:「水戸藩と新選組」

(要入館券) 日時:平成29年10月29日(日)14時~16時 会場:茨城県立歴史館 講堂

講師:木村 幸比古 氏(霊山歴史館副館長) 定員:200名(先着順)

2. 講演会 II 演題:「徳川慶喜・昭武,渋沢栄一 フレンチ・コーヒーを飲む (要入館券) ―将軍・元志士を魅せた嗜好品―」

日時:平成29年11月11日(土)14時~16時 会場:茨城県立歴史館 講堂

講師:齊藤 洋一 氏(松戸市戸定歴史館長) 定員:200名(先着順)

3. ミニ講座 演題:「志士の日記・書簡をよむ」

(要入館券) 日時:平成29年10月15日(日)14時~15時 会場:茨城県立歴史館 講堂

担当:茨城県立歴史館主任研究員 由波 俊幸 定員:200名(先着順)

4. 展示解説 日時:①平成29年10月8日(日) 「桜田門の巻」

(要入館券) ②平成29年10月21日(土) 「新選組の巻」

③平成29年11月3日(金・祝)「天狗党の巻」

④平成29年11月19日(日) 「大政奉還の巻」

各日とも11時~, 14時~, 各回約45分

会場:茨城県立歴史館展示室

担当:茨城県立歴史館主任研究員 由波 俊幸

5. 小・中学生向け展示解説 (要入館券)

日時:①平成29年10月14日(土)15時30分~

②平成29年10月15日(日)10時~

③平成29年11月13日(月)10時~,15時~ 各回約45分

会場:茨城県立歴史館展示室

担当:茨城県立歴史館主任研究員 由波 俊幸

6. 歴史館コンサート~幕末の響きを聴く PROJECT1867~ (要入館券, 要事前申込)

日時:平成29年11月18日(土)正午~,14時~,各回約40分

会場: 旧水海道小学校本館(茨城県立歴史館野外施設)

出演:浦山 純子 氏 (ピアニスト)

アーカイブズ展「常陸中世の古文書」

茨城県立歴史館では、平成29年12月2日~平成30年1月21日にかけて、アーカイブズ展「常陸中世の古文書」を開催いたします。当館に寄託・寄贈されている中世文書の大半は、保存・管理の観点から原則として原本非公開としております。今回のアーカイブズ展では、通常閲覧することができない貴重な中世文書の原本を文書群ごとに展示公開する予定です。

以下,アーカイブズ展出陳予定史料の中から2点を取り上げ,ご紹介したいと思います。

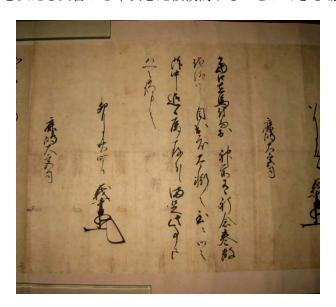
1 鹿島神宮文書

鹿島神宮 (鹿嶋市宮中) 所蔵の「鹿島神宮文書」(巻子本全 18 巻, 当館寄託) には中世文書など約 250 点が収められています。

常陸国一宮の鹿島神宮は中世には鹿島社と称され、内海の対岸に位置する下総の香取社とともに藤原摂関家と結びついて発展しました。「鹿島神宮文書」には8通の摂関家政所下文(藤原家の家政機関から発給される命令下達の文書)が収められていますが、鹿島社が藤原家の氏神であったこと、藤原摂関家が鹿島社領の本家(庄園領主)だったことによるものです。

治承4年(1180),金砂合戦で佐竹氏をやぶり、常陸国をほぼ支配下においた源頼朝は、「武家護持之神」として鹿島社を崇敬し、所領寄進を行うなどの保護政策をとりました。以降、鹿島社は中世を通じて、多くの武家の尊崇を集めることになりました。そのため「鹿島神宮文書」には、源頼朝下文、足利尊氏御教書・関東下知状など貴重な武家様文書が収められています。

また、「鹿島神宮文書」に伝来する数多くの巻数請取状にも注目していただきたいと思います。中世の寺社は、武家の依頼をうけて戦勝祈願・天下静謐・祈雨などの祈禱を行ないましたが、鹿島社でも、古河公方足利氏、佐竹氏、江戸氏、小田氏、真壁氏らの依頼をうけて、戦勝祈願などの祈禱が捧げられました。寺社は読誦した経典や数量、修法に要した日数など、祈祷の結果を記録して願主に送ることを通例としましたが、その報告書を巻数(かんず)といいます。巻数を受け取った願主側では、その返礼を寺社に送付しました。これを巻数返事(巻数請取状)といいます。巻数返事の内容は受領確認と謝礼だけのものが多く、年紀を欠いているのが大半ですが、情勢を伝える文言から年次を比較検討することができる場合もあります。



【史料 1】 (年未詳) 卯月廿四日付 佐竹義重書状 (No.15)

【史料1】は、佐竹義重が鹿島大宮司(中臣則興)に宛てた巻数請取状ですが、「陣中追日属存分候」とあり、戦況が順調に進んでいることを伝えています。年未詳ですが、相模小田原の北条氏と佐竹・宇都宮など北関東勢が覇権をめぐって争った、「沼尻合戦」(天正12年・1584)の時期の書状と考えられています。

2 芹沢文書

芹沢文書は、行方市(旧玉造町)芹沢の旧家芹沢家に伝来した文書群です(当館寄託)。

伝来の家譜・系図などによれば、芹沢家は桓武平氏一流、常陸大掾一族で本姓多気氏ということです。常陸大掾多気氏の末流とする系譜を確実に証する史料は残されていませんが、大掾氏をはじめ行方、小高、玉造、土岐、佐竹など常陸の諸勢力との婚姻関係を通じて、同地域に勢力を伸ばしてきた豪族であることは疑いない事実です。

応永年間の関東公方足利持氏書状をはじめとする中世文書 62 点は県指定文化財となっていますが、その特徴は、芹沢家が医薬にたずさわったことを示す史料が多いことです。古河公方足利成氏・政氏・高基・晴氏・義氏らに万病円・白薬(血止めの一種か)を進上したことの御返書、常陸の各地から芹沢に疵養生に来たことを示す書状等、中世文書としては珍しい内容といえます。

【史料2】は古河公方足利義氏判物で、芹沢土佐守が白薬・万病円・長寿丸を進上したことに対する返書です。「義氏」の署名がない、花押のみの署判ですが、大きくて威厳のある花押型です。年未詳ですが、義氏の花押型(花押C型、佐藤信博『戦国遺文 古河公方編』の分類による)から判断すると、永禄8年(1565)~永禄11年(1568)頃の発給文書と思われます。

永禄3年(1560)の上杉謙信出陣以降,関東では北条氏対上杉氏の抗争が激しくなり,両氏の間で去就を変転させる諸家中もありました。永禄9年,公方義氏を擁する北条氏政が利根川を越え,北関東へ進出した際,結城晴朝・小田氏治・宇都宮広綱らは証人(人質)を出して北条氏に服属しました。【史料2】にある「然者氏政向于常野越河,始結城晴朝,諸家中不相残着陣,諸証人相渡之条…」の記事は,小田部文書にみられる常陸周辺の政治的動向と合致しています。



【史料2】(年未詳) 七月廿五日付 足利義氏判物 (No. 34)

(史料学芸部歴史資料課 首席研究員 寺﨑 理香)

平成 14 年度インターハイ・サッカー競技会場関連 行政資料紹介

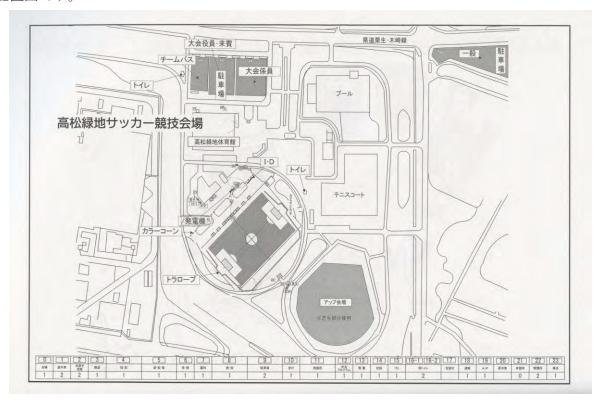
平成14年(2002)8月,茨城県で初の全国高等学校総合体育大会(通称インターハイ)が開催されました。サッカー競技は,鹿嶋市,神栖町(現神栖市),波崎町(現神栖市)で行われました。同年6月にカシマサッカースタジアムがワールドカップの会場となり,世界のスーパースターたちが熱戦を繰り広げた直後の開催です。

当館では、本大会サッカー競技関係の行政刊行物『平成 14 年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技』 (請求番号 2002-672) を所蔵しております。資料には、以下の7つの競技会場案内図が示されています。

- A カシマサッカースタジアム
- B ト伝の郷運動公園
- C 高松緑地公園多目的球技場
- D 鹿島港外港緑地運動公園
- E 海浜運動公園多目的広場
- F 若松緑地多目的広場
- G 若松総合運動場



下は、会場 C 高松緑地公園多目的球技場(以下「高松緑地サッカー競技会場」と表記)の 配置図です。



今回はこの高松緑地サッカー競技会場の歩みを示す当館所蔵の行政資料をいくつか紹介します。

まず、当館所蔵の**写真資料『航空写真 平成十四年度撮影 茨城県海岸線(四)』 (請求番号 E18-6)** です。



インターハイ開催の頃の写真です。交差点左下が高松緑地サッカー競技会場です。交差点右上には、鹿島アントラーズのクラブハウスが見えます。このインターハイ、上記 7 つのサッカー競技会場全てが芝のピッチという恵まれた環境で実施されました。高松緑地サッカー競技会場も芝のグランドであることが写真からわかります。

今度はこの地の以前の姿を見てみましょう。

下は、当館所蔵の**写真資料『茨城県全域航空写真(昭和 44 年度撮影)』(請求番号 航空写真 1-242)**です。黄色で囲んだ部分が、後の高松緑地サッカー競技会場です。



高松緑地は、サッカー競技会場からさらに西方に細長く伸びた敷地も含まれます。この高松緑地は、鹿島開発において緩衝緑地整備という事業が実施された場所です。緩衝緑地整備は、公害対策の一環として昭和45年~昭和50年の工期で、神の池・高松・和田山の3箇所に緑地を設けた事業です。

当館所蔵の**行政刊行物『開発の現況 1971 鹿島臨海工業地帯』 (請求番号 71-213)** には、この緩衝緑地について次のように示されています。

「騒音・振動・降下ばいじん・大気汚染・災害にそなえ工業地域と将来市街化が予想される後背地を隔離し、公害を排除するために都市計画法にもとづく緑地整備事業を推進している。(中略)なお、緩衝緑地には植栽のほか、近隣公園的施設・ピクニック広場・休養広場を設置し、球技広場・プール・テニスコート・体育館及び運動場も併設し、憩いの場として広く利用できる施設として計画している。」

また、当館所蔵の**行政文書『昭和 46 年鹿島臨海都市計画緑地事業承認申請書』(請求番号行 71-1249)**には、高松緑地について次のように記されています。

「・・・当地は従来海岸砂丘であったゆえ、10年程度のクロマツが現存し、これはそのまま残すことにしている・・・」

平成 14 年の航空写真では、高松緑地サッカー競技会場に多くの樹木が見られますが、現地で古いクロマツを探してみるのも楽しいと思います。

このような経緯で整備された高松緑地サッカー競技会場ですが、平成14年度インターハイ・サッカー競技会場として利用され、さらに、第74回国民体育大会(平成31年茨城国体)のサッカー競技会場としても予定されています。

先に紹介した**行政刊行物『平成 14 年度 全国高等学校総合体育大会 サッカー競技』 (請求番号 2002-672)** 所収の,地元高校生による歓迎のことばには,

「鹿島アントラーズのホームタウン」

「市民がサッカーにとても関心を持ち」

「サッカーはきわめて盛んであり」

「県立カシマサッカースタジアムでワールドカップが行われ」

「各地から合宿のために多くの学生が訪れ」

などの文言が見られます。鹿島地域がサッカーのまちとして定着してきたことが伝わってきます。



今年度の12/2(土)~1/21(日),当館にてアーカイブズ展「アーカイブズにみる鹿島開発からワールドカップまでの歩み」を開催します。鹿島地域がサッカーのまちとなる歩みを当館所蔵の行政資料で紹介します。閲覧室での資料利用とともに、ぜひ展示室にも気軽に足をお運びください。

(史料学芸部行政資料課 首席研究員 小倉 朗)

埴輪 靱を背負う男子 (個人蔵 当館寄託)





この埴輪は、小美玉市舟塚古墳から出土したもので、現在は当館の常設展示室で公開されています。両腕と腰から下の部分が欠けていますが、頭に冠をかぶり、背中に靱を背負った男性の姿をしています。

冠は頭部を円筒につくり、縁の部分を三角形状に刻み目を入れることで表現されています。 冠の下端は眉の上の粘土紐までで、後頭部にもこの粘土紐は確認できます。眼は切れ長のアーモンド形で、眉と鼻は粘土を T 字状に貼り付けています。この表現はこの古墳から出土した人物埴輪に共通するものです。側頭部をみると、この埴輪の人物は当時の男性によくみられる美豆良という髪形であることが分かります。おそらく、頭髪を真ん中から分け、左右それぞれの髪を耳の部分でまとめています。そのため、この埴輪には耳の表現はありません。

身体の正面には、X 字状の粘土紐がありますが、これは背中に背負った靱を身体に縛り付ける紐を表したものです。靱は矢を入れる道具で、背中に奴だこ状の粘土板を貼り付けて表現されています。一部欠けていますが、上部には線刻で矢が描かれていたと考えられます。また、欠けた部分をみると、靱の粘土板を貼り付ける部分に筋を入れることで、剥がれにくくしていることが分かります。

衣服の表現はありませんが、腰の部分の粘土紐は表したものであり、裸ではなかったことを示しています。女性もふくめ、衣服の表現に乏しい点も舟塚古墳の埴輪の特徴となっています。

(史料学芸部学芸課 課長 小澤 重雄)

トピックス

平成 29 年度 上半期の歴史館

よろい・かぶと**体験** 5月5日(金)

こどもの日、戦国武将甲冑モデル2領、一橋家当世具足モデル1領の試着をこどもたちが体験しました。ボランティアさんに手伝ってもらいながら、ちょっと重いけれどよろいを身につけ、かぶとをかぶると気分は戦国武将。ポーズを決めて写真を撮りました。おうちの方と記念写真も撮影し、おうちの方からは、「とても良い思い出になりました」との声が聴かれました。毎年参加しているお子さんもいて、今年も元気に参加してくれました。子どもたちの成長が楽しみです。



歴史館コンサート 6月18日(日)

歴史館庭園内・旧水海道小学校に保管されているグランドピアノ。慶応元年(1865)に製造された、スタインウェイ&サンズ社製のピアノです。今回はピアニスト:小林由佳さん、フルート:後藤晴美さんをお迎えし、歴史館コンサートが開催されました。ピアノとフルートのアンサンブル。いにしえの楽器の音色が柔らかく響き渡りました。





子ども体験プログラム 5月21日(日),6月4日(日),7月9日(日),8月27日(日),10 月15日(日)

小学 4~6 年生を対象に、実物資料を使った体験活動や史跡探検をとおして、郷土の歴史や文化を学ぶ全 5 回(①茨城の歴史・古代、②笠間城を探検しよう、③アーカイブズって?、④絵図と古文書、⑤特別展解説&フォーラム及び認定証授与式)の講座です。全 5 回中 3 回以上参加した子どもたちには認定証を授与します。参加した子ども達は、熱心に解説を聴き、メモを取っていました。笠間城探検では、旧上屋敷跡や石垣など所々に史跡の残る道を散策しました。子どもたちは興味津々に史跡に見入り、大人顔負けの質問がとびました。

③アーカイブズって?で子どもたちが選んだ記事は、12月2日(土)からのアーカイブズ展で展示されます。④絵図と古文書では、古文書を解読したり、古文書の文字を使ってしりとり遊びをしたりしました。







2017 いちょう並木ライトアップ情報

今年は11月10日(金)~11月13日(月)の4日間, いちょう並木のライトアップを実施します。 今年で4回目となる歴史館いちょう並木のライトアップを ぜひお楽しみください!

喫茶コーナー

秋の特別展「志士のかたち」を開催する10月7日(土)~11月23日(木・祝)の土・日・祝日に、いれたてコーヒーなどをお楽しみいただける喫茶コーナーを開設いたします。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

各行事などについてのお問い合わせは,

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。